

# 慈恩寺 Times

第27号

【発行】

寒河江市教育委員会 生涯学習課

【発行日】

平成30年3月20日(火)

【問合せ・ご意見等】

寒河江市教育委員会 生涯学習課

慈恩寺歴史文化振興室 歴史文化係

TEL:0237-86-8231

E-mail:shogaku@city.sagae.yamagata.jp

## 聖徳太子像が国の重要文化財に



木造聖徳太子立像(画像：文化庁提供)

平成30年3月9日(金)、文化庁の文化審議会が開かれ、慈恩寺の「木造聖徳太子立像」(以下、聖徳太子像)を国の重要文化財に指定するよう答申されました。今後、官報に告示されて、正式に国の重要文化財となります。なぜ聖徳太子の像が慈恩寺などのお寺に？

聖徳太子は、推古天皇の摂政を務め、十七条の憲法や冠位十二階を定めたことなどで教科書でもおなじみの歴史上の人物ですが、仏教を政治の中心に置いた人でもあります。慈恩寺などのお寺にあるのは、仏教に対する功績から敬われたため、と考えられます。何をしている姿なの？

「孝養像」という形で、16歳の聖徳太子が、病気になった父・用明天皇の回復を祈っている姿です。

指定の理由は？

この聖徳太子像の中から、約700年前の正和3年(1314)に書かれたお経が見つかりました。像自体も、彫り方や姿などから同じ頃に作られたと考えられます。作られた年代がわかること、全国にある聖徳太子像の中でも優れたできればであることから重要文化財に答申されました。

### 国立博物館で展示も

聖徳太子像が新たに指定された国の文化財として、国立博物館で展示されます。期間：4月17日(火)～5月6日(日) 会場：東京国立博物館(東京都台東区)

史跡慈恩寺旧境内  
関連事業  
達成  
メーター



・文部科学大臣による  
国史跡指定  
(官報告示)

・保存活用計画策定

・整備基本計画策定  
・史跡の追加指定に  
向けた調査

・整備事業開始



## 慈恩寺関連の文化財指定が続々と

平成 29 年度は、国だけでなく、県や市でも慈恩寺関連の文化財指定が相次ぎました。

高松地区の鹿島にある「八鍬鹿島神社本殿・拝殿」は、江戸時代に造られた建物です。今では本殿と拝殿が離れていますが、古い写真から拝殿に本殿が組み込まれていたことがわかりました。今でも柱などにその跡があります。建物もしっかりしており、神社ですが仏様をまつる形をしています。これらは、神様と仏様が一緒(「神仏習合」<sup>しんぶつしゅうごう</sup>)といえます)だった時代の特徴です。

また、ここは慈恩寺の南の結界だったところで、神社の別当(管理者のこと)を務めていた山伏・鹿嶋院は、慈恩寺の祭礼に参加していました。

神仏習合時代の祭祀状況を伝える貴重な建物として、昨年 11 月 22 日付で寒河江市の文化財に指定されました。



八鍬鹿島神社拝殿(画像：菊池進氏提供)

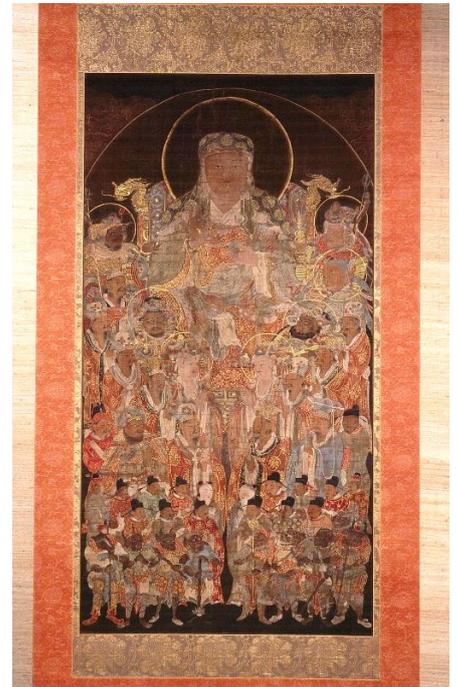
<sup>けんぼんちゃくしよくじぞうじゅうおうぞう</sup>  
慈恩寺華蔵院の「絹本著色地蔵十王像」は、朝鮮半島で高麗王朝の時代(918~1392 年)に描かれたものです。

製作者は不明ですが、宮廷に関わる絵師が描いたとみられます。頭巾を被った地蔵菩薩を中心に、四天王や十王などが描かれています。

慈恩寺へどのようにしてやってきたかは、わかっていません。しかし、こうした貴重なものがもたらされたことは、この作品がもたらされた頃の慈恩寺に力があつたことが理解できます。

「地蔵十王図」の名称で市の文化財に指定されていましたが、1月12日付で名前も新たに県指定文化財となりました。現在は東京国立博物館に寄託されています。

2件とも、慈恩寺の歴史を物語る大変貴重なものです。



絹本著色地蔵十王像



この表紙が目印です！

市立図書館では、読書普及事業として、東北芸術工科大学芸術学部文芸学科とコラボし、『文芸レビュー』を2月に発刊しました。「寒河江が継承してきた文化と伝統」を特集し、慈恩寺の十二神将を小中学生も楽しめるような文章とイラストでとりあげています。市立図書館で閲覧できます。ぜひ、ご覧ください。

### 芸工大生が十二神将を特集



今年度取り組んできた史跡慈恩寺旧境内整備基本計画が、3月末に策定されます。作業も大詰めを迎えています。

### 整備基本計画の策定が間近